

参考資料 2：事業の実施状況

2-1 トンネルの施工状況

令和2年度までの工事の実施箇所におけるトンネルの施工状況を、以下に示す。

南アルプストンネルについて、除山非常口トンネルを7割程度（約1,400m）掘削した。釜沢非常口トンネルを3割程度（約100m）掘削した。小渋川非常口トンネル（約1,100m）の掘削が令和元年度に完了した。先進坑は、小渋川非常口トンネル接続部から釜沢非常口トンネル接続部の間を5割程度（約800m）掘削した。

伊那山地トンネルについて、青木川非常口トンネルを6割程度（約400m）掘削した。

2-2 トンネル湧水等の状況

令和2年度までの山岳トンネル工事の実施箇所におけるトンネル湧水等^注の状況を、以下に示す。

2-2-1 南アルプストンネル（長野工区）

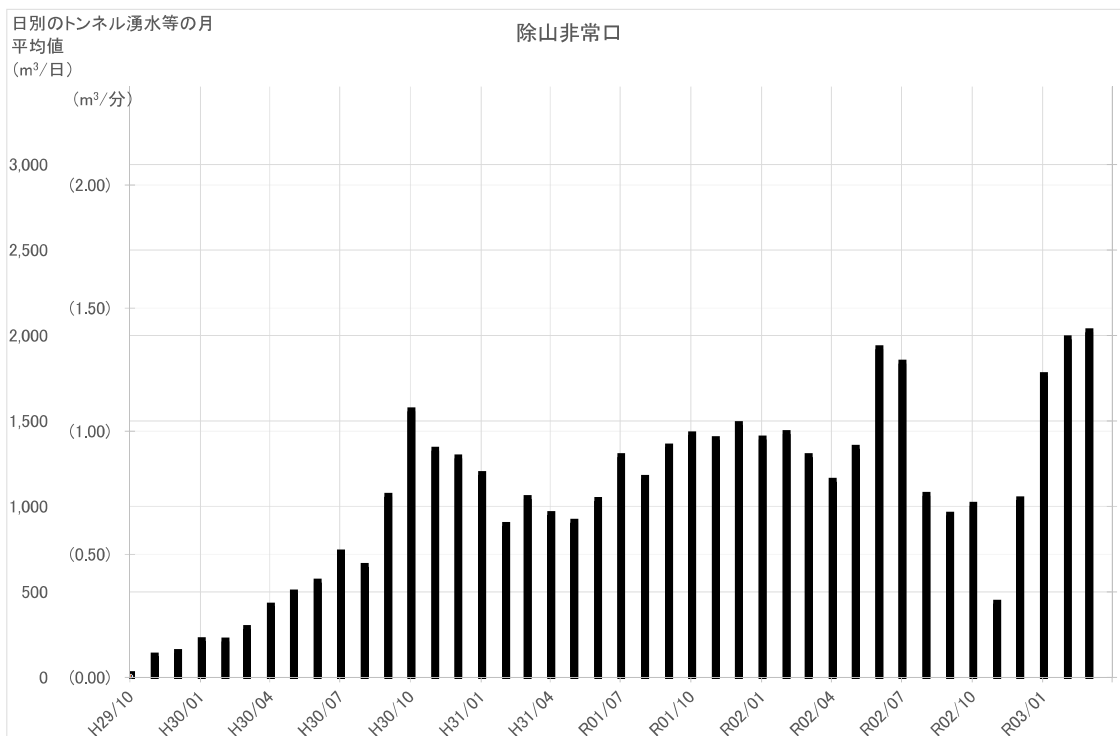


図 参 2-1 除山非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況（令和2年度まで）

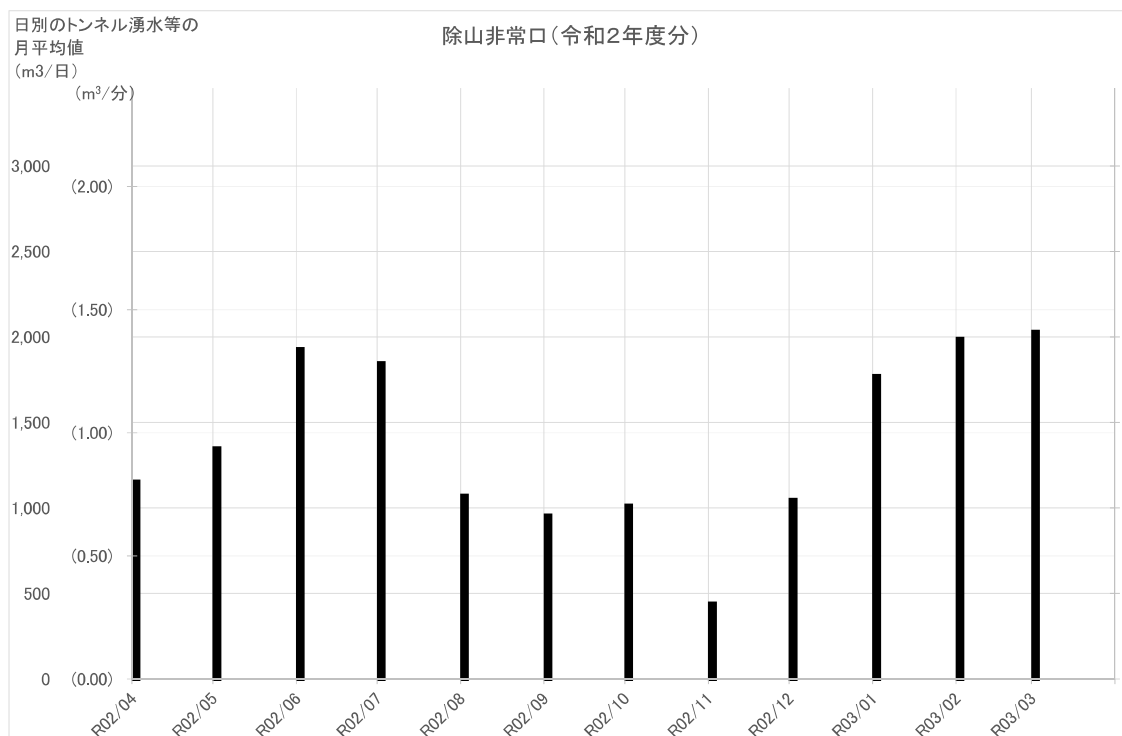


図 参 2-2 除山非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況（令和2年度分）

注：トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。

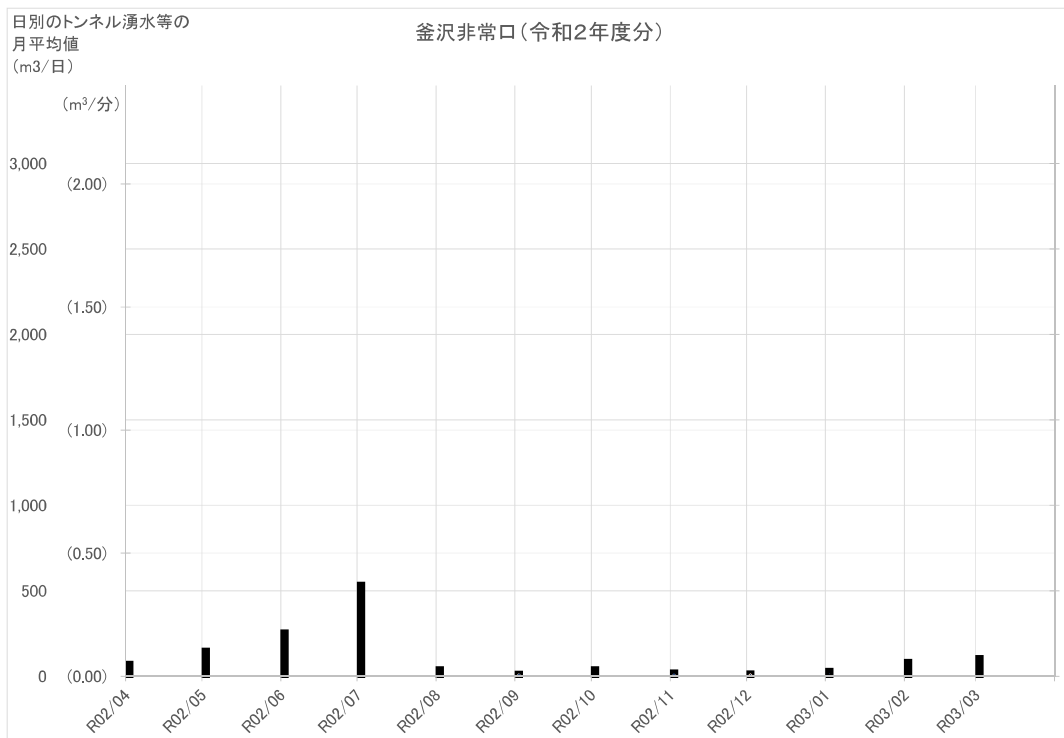


図 参 2-3 釜沢非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況 (令和2年度分)

注：トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。

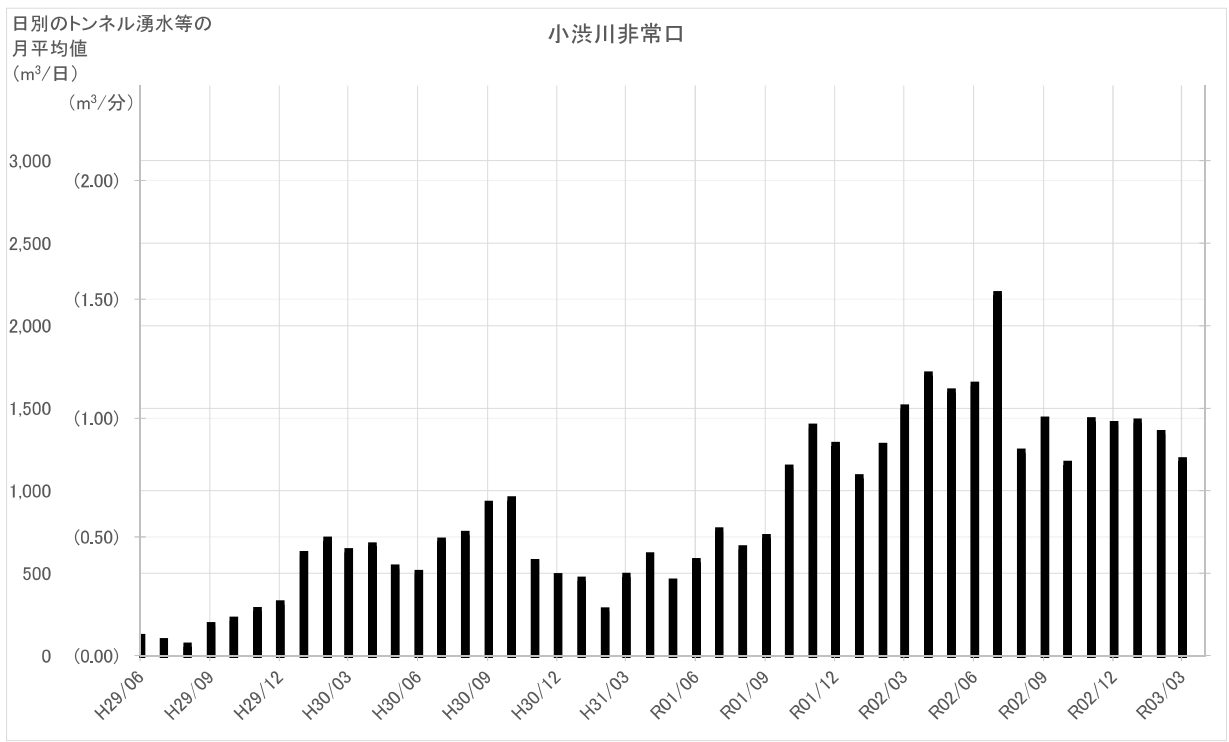


図 参 2-4 小渋川非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等注の状況 (令和 2 年度まで)

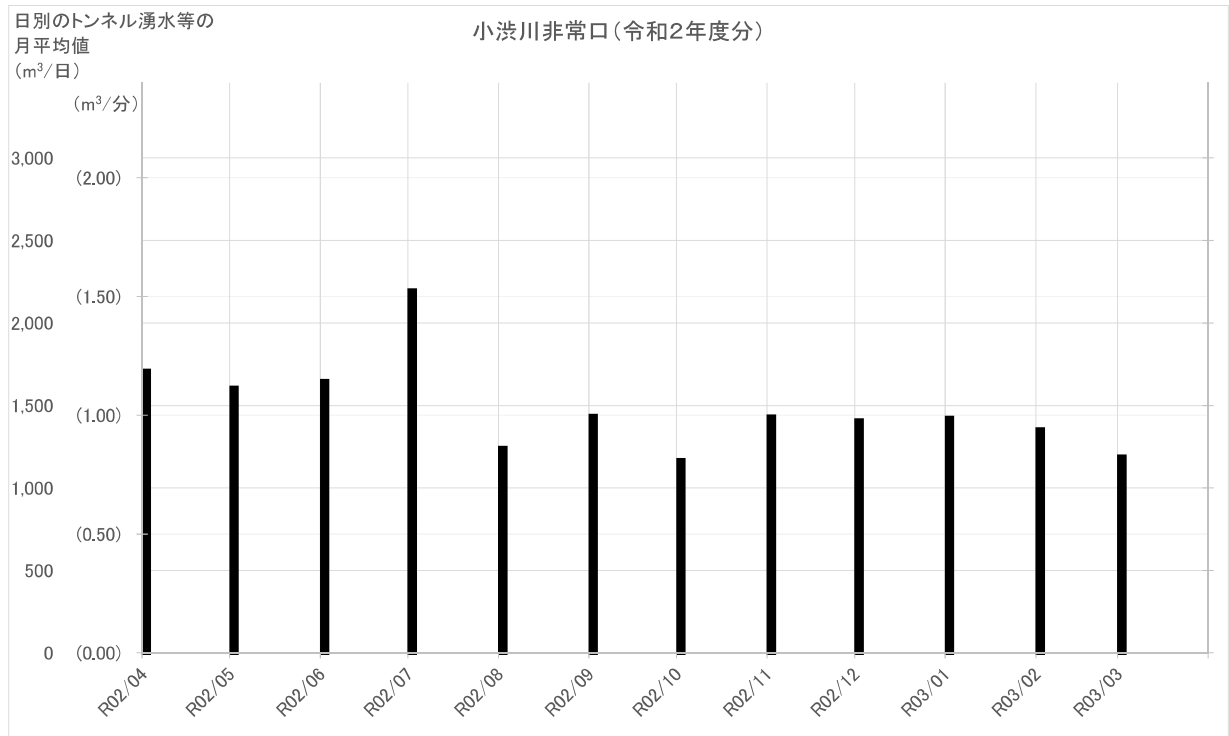


図 参 2-5 小渋川非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等注の状況 (令和 2 年度分)

注：トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。

2-2-2 伊那山地トンネル（青木川工区）

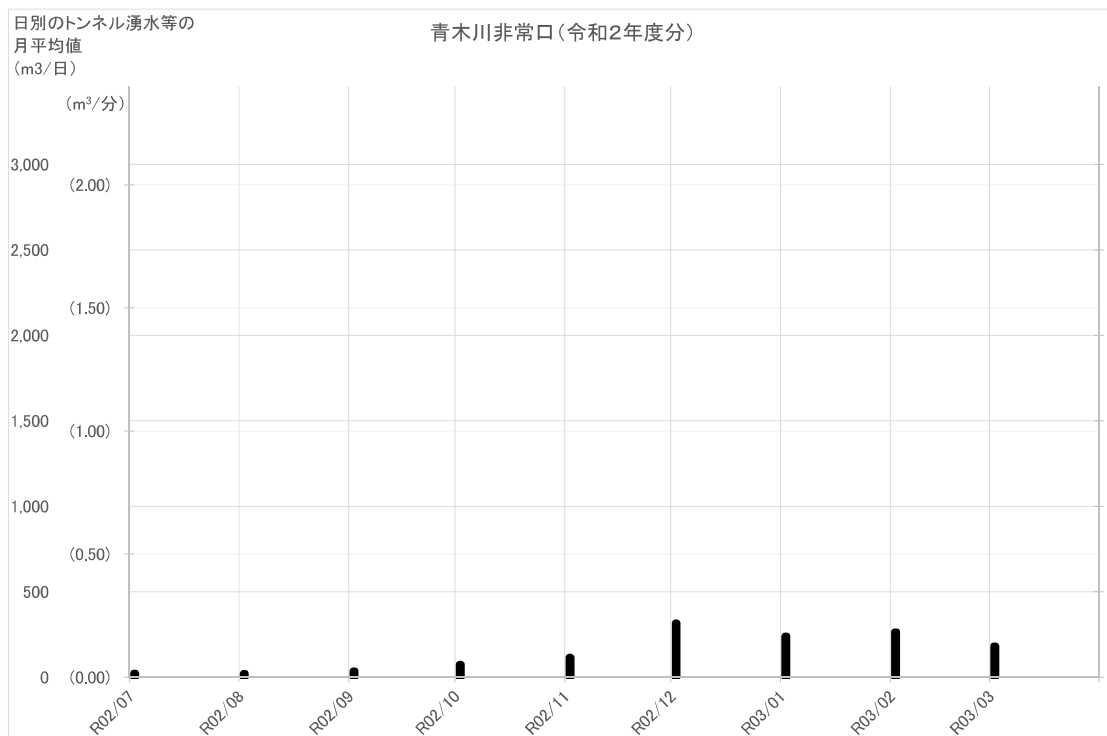


図 参 2-6 青木川非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況（令和2年度分）

注：トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。

2-3 建設発生土の主な搬出先と土量

令和2年度の各工事实施箇所における建設発生土の主な搬出先と土量について、自治体等を窓口を活用しているものは、表 参 2-1 に、令和2年度末時点で、当社が計画・設置する発生土置き場に活用した土量^注は、表 参 2-2 に、発生土仮置き場等に存置している土量^注は、表 参 2-3 に示すとおりである。なお、土壤汚染対策法で定める土壤溶出量基準値を超える自然由来の重金属等を含む発生土または酸性化可能性試験により長期的な酸性化の可能性のある発生土^注（以下、「区分土」という。）は表 参 2-4 に示すとおりである。

注：締固めた土量で表記している。

表 参 2-1 建設発生土の主な搬出先と土量

市町村名	建設発生土の搬出元	主な搬出先	土量
大鹿村	小渋川非常口	飯田市が実施している 代替地整備事業	約 7 万 m ³
大鹿村	青木川非常口	喬木村が実施している 工場団地造成事業	

表 参 2-2 発生土置き場に活用した土量

市町村名	発生土置き場	土量
大鹿村	発生土置き場（旧荒川荘）	約 3 万 m ³
大鹿村	発生土置き場（青木川）	約 1 万 m ³
豊丘村	発生土置き場（本山）	約 1 万 m ³
喬木村	発生土置き場（堰下）	約 1 万 m ³

注：締固めた土量で表記している。

表 参 2-3 発生土仮置き場等に存置している土量

市町村名	発生土仮置き場等	土量
大鹿村	発生土仮置き場 A	約 8 万 m ³
	発生土仮置き場 B	
	発生土仮置き場 E	
豊丘村	発生土置き場（本山） 仮置きヤード	約 1 万 m ³

注：締固めた土量で表記している。

注：発生土仮置き場 E の土量については、土壤汚染対策法で定める土壤溶出量基準値を超える自然由来の重金属等を含む発生土または酸性化可能性試験により長期的な酸性化の可能性のある発生土は含まない。

表 参 2-4 発生土仮置き場等に存置している区分土の土量

市町 村名	発生土仮置き場等	土量
大鹿村	発生土仮置き場E	1万 m ³ 未満

注：締固めた土量で表記している。